

釜石市立唐丹小学校

2014年 8月 5日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「saveMLAK」博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 愛知教育大学教育研究センター
「リベラル・アーツプロジェクト 2013年度 被災地聞き取り調査レポート」 http://www.aichi-edu.ac.jp/higher-edu/liberal/research/post_10.html
- (3) 『NHK for School げんばるマン [2014年度 第9回] 防災の全員が助かった』
放送日：2014年11月20日 http://www.nhk.or.jp/sougou/genbaru/index_2014_007.html

【場所】

唐丹湾から200mの位置にある。

住所:岩手県釜石市唐丹町片岸32-1

※ 現在校舎は取り壊され、唐丹中学校の敷地で仮設校舎を建てて再開した。

【東日本大震災による被害】

津波により校舎が全壊。(1)



【震災当日の様子】

地震が起きた当日の14時46分、学校は5時間目が終わったばかりで、全児童73人のうち1・2年生は教室で帰りの会の最中、3年生以上は体育館で卒業式の練習中だった。立ってられないほどの激しい揺れの約2分間を含め、地震は5分ほど続いた。揺れが続く間、校長は何とか放送室にたどり着いたが、すでに停電のため放送は流せなかった。この間、1・2年生は担任の指示ですぐに机の下にもぐり、揺れが小さくなった時に校庭に避難した。3～6年生は体育館の天井からの落下物を避けて最初は体育館中央部に集まってしゃがみ込み、手で頭を押さえていたが、こちら揺れが小さくなるとすぐに非常口から校庭に避難した。学校の危機管理マニュアルでは、校庭とは反対側の児童昇降口前に児童を集合させることになっていたが、想定外の揺れの強さから落下物等の危険性を考えた教師たちの判断で急遽校庭に避難させた。

児童全員が揃ったとの連絡を受け、校長は近くの避難路を登った高台にある天照御祖(あまてらすみおや)神社に避難することを指示した。避難訓練のときは、1年生から順に避難路を登ったが、この時は6年生を先頭にして下の学年が続くという避難方法をとった。できるだけ早く安全な場所へ全員を移動させるための判断だった。(2)

また、NHKの子供向け防災番組では、校庭で津波警報が出されるまで待機しようとする児童と教職員を見た近所の消防団の男声が、早く避難しようこと声をかけ、それから避難が始まったと紹介されている。番組の聞き取り調査によると、地震発生から5分後に校庭に避難し、その5分後には神社への避難を開始している。神社へ避難した後、教職員の判断でさらに高台の広場へ避難している。津波が学校に到達するまでは地震発生から36分ほどだった。(3)

【調査して言えること】

学校の敷地は標高15mほどで、海からの距離も近く、地震発生から約36分で津波が学校に到達していることから、迅速な避難が必要な学校だったと言える。

また、避難先の神社の標高は20mほどで、ぎりぎり津波の到達を免れている。神社の次に避難したと思われる高台の広場は標高40m以上あり、安全な高さであったと考えられる。



学校のあった場所と神社(2014/3/17撮影)

※ 神社は木に囲まれた内部にある。



広場から見た学校と海(NHKの番組(3)より)



学校のあった場所と防潮堤(2014/3/17撮影)

※ 防潮堤の向こうは唐丹湾である。